

まちネットワークよりい まちネット寄居 私たちが築きましょう 私たちのまちづくり

手をつなご!

まちネット 寄居通信『さあ 手をつなご!』はみなさんの支援力がエネルギー源

2005年度のはじめに

まちネットワークよりい 代表 遠藤 明子

新緑の鮮やかさが眩しい今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

「2005度は住民主体のまちづくりができるチャンス的一年!」自分自身も、昨年末から幾度となく口にしてきたように思います。皆様ご承知のように「わたし発のまちづくり」というのは、まちネットワークよりい設立当初からの思いです。寄居町がひとり身での再出発をした今年度は、まさにそれを実現につなげられるチャンスといえるでしょう。日本中を見回してみますと、ここ2、3ヶ月間に、昨年度に合併した自治体の市議選や市長選が次々に行われていますが、すでに新しい枠組みで動き出した自治体では、生活の中で現実を突きつけられて愕然としている市民も多いようです。寄居町では全町民の意思を問われることなく結論が出ましたが、その過程はともかくとして、合併しなかったことがむしろ「わたし発の町づくり」を現実近くに近づけてくれたように感じています。

私たちが求めるまちづくりは、誰かに与えられるのではなく、自分達が自ら考え、そして発信していくものであることを、新年度のはじめにあたり、あらためて心にきざんでいます。

あなたの不安 届けてください

■□■ 6月からまちネット会員の暮らしの意識調査始めます ■□■

かつての日本社会では考えられないほど殺伐とした事件が続いています。幼い子どもたちの命が簡単に奪われるなど、痛ましい事件が報道されるつど私たちは今までにない類の不安に駆られます。また、地球規模での環境問題や、老後の介護も、教育も安全も、すべてお金で買う経済至上主義の体質は、貧富の差の拡大、自殺者の急増を生む等、社会の構造そのものが病んでいます。今、あなたが一番不安、不満に思っていることは、何ですか。

今年度、まちネット寄居では会員の皆さんの暮らしの意識調査を計画しています。

と言っても、そんなに堅苦しく考えないで、一人で抱えている不安、不満を声に出すことで皆で共有し、地域の中でどんなことが出来るのか、どんな仕組みが必要なのか話し合うなかから具体的な解決への糸口を作っていきたいと思っています。

皆さんの声を整理し、それを基に、8月には誰でも気楽に参加できる、納涼会(?)お茶会を兼ねて、わいわいとおしゃべり会を予定しています。ぜひ参加してください。



住民自治力が福祉を支える

秋田県鷹巣町前町長の岩川徹さんは、任期12年間に渡り「住民の意思に基づく政治」を基本理念とし、自分の足で住民の声を集め住民参画を力に福祉行政を最優先課題に据えてひた走って来られた。高齢者の自己決定を保証する鷹巣町高齢者安心条例の制定は、高齢者福祉先進地として鷹巣の名を不動のものとしたように見えた。しかし、2003年、岩川さん4期目落選の報。あの鷹巣で一体何が起きたのか。福祉の町づくりを鷹巣から学ぼうと記録映画の上映会を開いた仲間や、住民参画の町づくりに取り組む仲間の中から岩川さんご本人のお話をという声が高まり、『わたしたちのまちづくりをつなぐ実行委員会』を結成。岩川さんより講師のご快諾を頂戴し、3月19日寄居会場(30名)、20日嵐山会場(35名)と開催した。講演は、デンマークを手本に住民とともに取り組んできた福祉の町づくり、生活の尊厳を守るコスト投入を住民主体で論議し実現していくプロセスが需要でそれが住民自治だという内容に及び、最後に民主主義と対極にあるアウシュヴィッツの写真を映し出すという中身の濃いお話でした。合併推進派による福祉バッシングに、鷹巣のお年寄りたちが、「もう(年寄りにそんなにお金を掛けなくも)いいよ」と言い出したと伺い、これからの福祉は住民自治力にかかっているのだと思い至りました。

篠原由実子



感想

岩川徹氏講演会

東北の福祉の町「鷹巣」。映画もできた町。老人福祉が進んでいる町。その町長さんが寄居に来る。ちらしによると岩川徹さん(前町長)とどうしたのだろう、どう進んでいるのだろう。鷹巣まで行けないので会場に行きました。第1印象は、薬剤師さん、若い人で、まだ活躍できそうな人。全国を飛び回っている。利用者である住民を尊重し、サービスを作るにあたっては多くの住民の参加と合意というプロセスを踏み、デンマークに学んだそうです。在宅福祉を進める施設を小学校区を単位に整備され、ホームヘルパーの24時間派遣、看護スタッフを整備されたそうです。高齢者自身の人権、尊厳を守るための安心条例も制定し、普通の町なのに全国から職員が集まって来たそうです。全国トップの福祉の町鷹巣の今後を見守りたいと思います。岩川さんには、まだまだ活躍してほしいと思った講演会でした。

相馬かよ子

#####

去る3月19日(土)に、前・秋田県鷹巣町町長の岩川氏のお話を聞いて、ああ！やっぱりと思いました。「トップがかわらなければ何も変わらない。」この言葉の重みを、感じました。

福祉という課題を、プラス指向にとらえて真正面から取り組んでこられた岩川氏に拍手を送りたいと思います。住民の声に耳を傾け、そして実行するために何度もデンマークに足を運んで学び、住民を巻き込みながら着実に実行していく。全国に先駆けてすばらしいお手本になっていたのに……。力を落とさず、これからも頑張ってください。

高橋陽子

秋田県の鷹巣町。TV等で話題になっていたのは知っていましたが、その実態についての知識はおぼろげなものでしかありませんでした。この講演で岩川前町長の手腕に感嘆するとともにその政策の行方を見極められず、残念という思いでした。『痴呆高齢者が座敷牢状態に』『80歳代の方が80歳代の方が介護する老老介護』『介護パニックに陥る家庭』これこそが課題！として、はっきりと明確な目的を掲げた岩川氏は鷹巣町の町長に当選。町民の皆さん、すごい！よくこの人を選びましたね！

福祉国家デンマークの今なお進化する福祉を参考にしようと、何度も訪れて、自分たちの福祉のまちづくりを模索していく過程。高齢者の福祉と老人保健施設のスタッフを確保することで雇用の場も確保する。まさに一石二鳥！ あざやかなお手並み！私たちの町もかくあれば・・・という思いがよぎる。

財政面で見れば、なんと町の予算の三分の一が福祉予算という構造。しかし、秋田県内の他自治体と比べても決して悪い財政状況ではなく、12年間かけて歳出構造をかかえた結果なのだという。政治は変わらない、なんて言わせない鷹巣町の歩み。これだけの結果を出しながら、今年、諸々の事情により住民自らが福祉の町を選択しなかったという政治の現実。私たちに本当に必要なものは何だろう？何ができるのだろうか？とても難しい、考えさせられるお話でした。吉田充子

今年(2005年)3月21日、「止めよう!ダイオキシン関東ネットワーク」からの提案で、彩の国資源循環工場と環境を考えるひろば・生活クラブ生協小川支部・生活クラブ生協寄居支部・まちネットワークより共催で、彩の国資源循環工場の見学会を行いました。荒川流域ネットワーク・ダイオキシン問題を考える市民の会(川口市)・川口ダイオキシンを考えるみんなの会など、いろんな団体が参加して下さり、20名くらいの予定が40名を超える人たちが参加して下さいました。その一方私たちは、この2日前に環境ひろば(&まちネット)で公聴会、まちネットで講演会が重なったこともあり、いつもの気配りネットワークが発揮されきれなかった部分があったのが少しだけ反省点です。見学したのは、今年の1月から試験運転を始めている「環境サービス」で、ここは RPF^{*注} ゴミ固形化燃料製造と生ゴミの堆肥化の工場です。

加藤晶子

(*注)RPF=原料に生ゴミを含まないゴミ固形化燃料のこと。含まれていると RDF といいます。

参加者の声

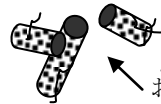
先日、機会あって彩の国資源循環工場の一社、(株)環境サービスを見学してきました。当日は東京、神奈川からも、以前寄居公民館で講演して下さった、藤原寿和さんをはじめ多くの市民の方々の参加がありました。あちらでも似た様な工場ができるらしいのです。活発な質問がその関心の高さを物語っています。カラーパンフレットを見ながら工場責任者の方の説明を受け、見学のかたち。

環境サービスは廃プラスチック処理と堆肥化処理の施設です。前者は廃プラを再びプラスチック再生原料(マテリアルリサイクルという)またはゴミ固形化燃料(RPF という)を製造します。1日(24時間かけて)50トンの処理ができるそうです。後者は一般家庭・スーパー・公共施設・食品工場・剪定材木業・農業系廃棄物などから発酵をくりかえし、72日間で堆肥を作ります。生ごみに種菌と水分調整材(もみがら)を混合してスタートです。1日7トンの処理が可能だそうです。前者の工程では、畳の破碎、パン工場から(?)のパン袋と残渣の手選別など、実際はまだ5%ほどの受け入れと言われたが、さて、あと95%プラスされること考えると・・・怖いですねえ。すごい粉塵、ニオイですもの。目には見えていないもの。それを外に出さないしくみ。あの集塵機で100%になったとき大丈夫なのかな? 重装備でもなく、働いている方々の健康面でのフォローをまずお願いします、と、祈るような気持ちになりました。堆肥のほうはそちらに比べるとかな、ホッ、とした空間。醗酵途中のほかほかと湯気の上がる土色の風景。日数的にも、袋詰めまでの工程があるが、出来上がりを触ってみたいし、おいしくて安全な野菜作り

に一役買ってくれることを、これまた、祈ります。

帰り道、オミヤゲにもらった、出来たてホカホカの RPF、2~3cm くらいのよく使うビニールの荷物紐が見える。紙、木屑といっしょのかたまり。燃料になるんだよね。・・・大丈夫?・・・心配が押し寄せるけど、ただ、せめて、今日見てきたことを、まずは自分のまわりに伝えよう。やっぱり、そこからはじめてみるね。

三澤 秀子



おみやげの RPF(こんな感じ・・・)



彩の国資源循環工場のうち今年1月より稼働を始めた(株)環境サービス寄居工場を見学してきました。廃プラスチックのゴミ固形化燃料の製造と生ゴミなどの堆肥化処理を行っています。施設の外では、においや音が気になりませんでした。けれど一歩室内に入ってみると、ゴォーッという音と、こもったような臭気がしました。説明によると騒音が外部に洩れないよう二重壁構造に、臭気対策として活性炭の脱臭装置を工場上部に取り付け、そこを通してから外へ排気しているとのことでした。また、工業廃水を外へ排水してはいけないので、施設内で処理をした後再利用しているそうです。製造したRPFや堆肥を売却して得られる収入は副産物のようなものであり、あくまでも廃棄物の受け入れによって生じる収益がメインなのですが、環境への影響を考慮した処理に手間がかかることから搬入量が少なく、今のところ稼働率は5%くらいだそうです。

高橋ルミ子・ゆき乃



バイオマス日本戦略

国土交通省をはじめ農林水産省、文部科学省、経済産業省、環境省が連携してバイオマス普及に向けた国家戦略「バイオマスニッポン総合戦略」の立ち上げに着手し、平成 14 年 12 月に閣議決定した。これは、石油に依存した日本のエネルギー構造を改め二酸化炭素の排出を抑えるとともに、資源の有効活用で循環型の社会をつくるのが目的。従来、コンポストに生ゴミを投入すると有機物を好気性バクテリアが水と二酸化炭素に分解することが知られています。好気性バクテリアとは酸素を好むバクテリアのことです。酸素と反応して水と二酸化炭素ができたということは、バクテリアの体内でメタンを生成していることが考えられます。酸素を好まない嫌気性のバクテリアはメタンのまま排泄します。メタンは天然ガスの主成分であり燃やすと熱エネルギーを発生して水と二酸化炭素になります。

ここで伝えなかったことは、好気性のバクテリアが自ら消費していたエネルギーを嫌気性のバクテリアを使えば活用できるということです。他方、循環型社会を担うエネルギーとして水素の実用化が急がれておりますが水素は自然界に化合物として存在するため分解が必要になります。そこでメタンと水蒸気を反応させると水素と二酸化炭素に改質します。この二酸化炭素を回収して冷媒ガスとして利活用すれば大気中の二酸化炭素をコントロールできる可能性がでてきます。ゴミを電気に変えて売電する方法は利益が薄いうえに余った電気を溜めることができません。水素は電気の弱点を克服し、電気よりも安く作れてガソリンよりも高く売れる可能性があります。

彩の国資源循環工場もあまり目先のことにとらわれずに住民参加型を実践して真の循環を追求すれば結果的に経済効果が上がることに気づいて欲しい。
関川和博



3月19日

これ以上 拡げないで！

公聴会

■寄居町役場で意見を公述しました■

今年1月に彩の国資源循環工場の1部稼働、あとの8社がこれから順次稼働なのに、早くも西側隣接地(西の入)に拡大する計画が進んでいます。「彩の国資源循環工場第Ⅱ期事業基本構想」といいます。それについての意見書提出、そして公聴会・・・と迫られるようなスケジュール。公述希望者がいなければ「寄居町では反対もなく・・・。」とまるで地域をあげて歓迎しているかのようになる。それは避けたい！結果、公述者は5名。まちネット寄居としては遠藤が意見を述べました。施設拡大の必要性を感じられない思いは5人共通で、それぞれの視点から15分制限内での公述。何か大きく変わらないかもしれないけれど、大勢からの意見書や公の場でのアピールはとても大切。

ただ残念だったのは、公聴会の開催が年度末だからなのか傍聴人が少なく、更に町職員は1名。環境課職員、町長、議員たちが会場に来ていないのは、おかしくないですか？ 県主催だからお任せ・・・彼らは町民の思いを聞くつもりはないのでしょうか。

公聴会とは、県や町にとっては『手続きのひとつ』であり『ひとごと』なのでしょうけれど、この地に暮らし続ける私たちにとっては、『生活への不安を切実に感じて

いることを伝えられる重要な、そして、数少ない公の場』なのです。

遠藤明子

※公述意見は県のホームページに載ります。ぜひ覗いてみてください。



information

6月2日～3日 / NO2 測定

生活クラブ主催、まちネットも加わっています。今年度は生活クラブ寄居支部で、自分達による検査ができます。(詳細は遠藤まで 581-9948)

6月5日 / 一斉水質調査

荒川流域ネットワークと生活クラブと共に、毎年実施しています。**あなたもやってみませんか？**

午前10時前後に、調べたい川の水を(水面より20cm以上下あたりから)ピンに汲んで、ナツハウス(大北宅)へお持ちください。その場で結果がわかります。(詳細は大北まで 582-4073)

+++ 編集後記 +++
「寄居町の良いところは〇〇〇」パツと頭に浮かぶような町にしたいですね、みんなで力を合わせて。形だけの町民会議じゃ、この町は変わりません。--E--